

Design  
your  
passion

株主のみなさまへ  
**第88期 中間報告書**

2012.4.1-2012.9.30

(平成24年4月1日-平成24年9月30日)

株主のみなさまへ…………… 01

財務ハイライト…………… 03

トピックス	お客様に最高のモビリティライフを… 05
-------	----------------------

すべてのステークホルダーから信頼され、  
共に成長する企業を目指して…………… 07





取締役社長  
豊田周平

## 株主のみなさまへ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに「第88期 中間報告書」をお届けし、当社グループの経営方針を改めてご説明いたしますとともに、当期(2012年4月1日～2012年9月30日)の業績概況、事業概況をご報告いたします。

### 2020Vision、 2015中期経営計画を策定

トヨタ紡織グループでは、このほど、10年先のありたい姿を描き、さらなる飛躍を目指した「2020Vision」を策定いたしました。

私たちを取り巻く自動車産業は、今後も新興国を中心に、一層の成長が見込まれています。しかしながら、新興国市場では、低価格のコンパクトカーが成長の中心であると予測され、事業拡大に向けて、厳しい価格競争を勝ち抜いていかなければなりません。また、既存ビジネスを維持しつつ、新規顧客ビジネスを拡大させる必要もあります。そのためには、世界中のあらゆるお客さまの期待を超える、魅力的で快適な移動空間を提案し続けることが必要であることに加え、責任あるグローバルカンパニーとして、すべてのステークホルダーから信頼され、ともに成長する会社でありたいと考えております(右図参照)。

当期は、東日本大震災の影響による著しい生産減少からの回復やエコカー購入支援政策により、自動車の生産台数は前年同期を大きく上回る状況になりましたが、円高の継続など、依然として厳しい経営環境が続いております。このような情勢の中で、当社は、新たにブラジルや中国 長春

で自動車内装部品の生産を開始したほか、紡織オートモーティブチェコなど新たな生産拠点の設立を図るなど、世界各地でのお客様ニーズに応えるとともに、最適な生産・物流体制を構築し、地域一体となった効率的な運営に取り組んでまいりました。

### 増産の影響などにより 前年同期に比べ増収増益

当期の業績につきましては、前年同期に比べ増収増益という結果になりました。連結の売上高は、増産の影響などにより、5,513億円(前年同期比1,505億円増)となりました。利益につきましては、製品価格変動の影響などの減益要因はありましたが、増産増収の影響、合理化などにより、営業利益183億円(前年同期比128億円増)、経常利益189億円(前年同期比132億円増)、当期純利益94億円(前年同期比109億円増)となりました。

また、配当金につきましては、株主のみなさまへの安定的な配当の継続を重視し、1株当たり中間配当金は8円(前年同期比1円増)とさせていただきます。

通期業績予想に関しましては、売上高1兆100億円、営業利益210億円、経常利益230億円、当期純利益80億円を見込んでおります。日本経済は復興需要などを背景に一部では回復傾向も見られますが、欧州債務問題の深刻化など、依然として先行き不透明な状況が続いております。自動車業界も、エコカー購入支援政策の打ち切りもあり、今後も予断を許さない状況が続くと思われれます。

### 「Quantum Leap (発想の飛躍)」を持って課題に挑戦

厳しい経営環境の中でも、トヨタ紡織グループは、今後の成長市場である新興国における価格競争への対応や新規顧客の獲得など、グローバルに勝ち残るための新たな体制を構築し、「2020Vision」達成に向け、これまでの考え方や価値観に捉われないこととなく、社員一人ひとりが「Quantum Leap (発想の飛躍)」を持って課題に挑戦し取り組んでまいります。

株主のみなさまにおかれましては、より一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

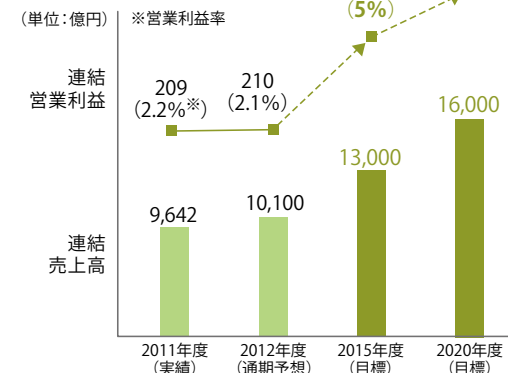
### 2020年にありたい姿

**事業におけるありたい姿**  
世界中のお客さまに最高のモビリティライフを提案し続ける会社

**社会から見たありたい姿**  
すべてのステークホルダーから信頼され、ともに成長する会社

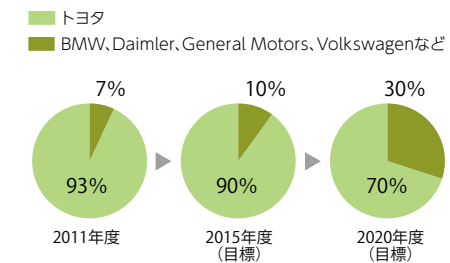
### 経営目標

連結売上高および営業利益  
(単位:億円) ※営業利益率



### 売上比率

現在のトヨタ自動車(株)向けの売上高を維持し、新規顧客・新規プロジェクトの獲得を通じて事業拡大を目指す。

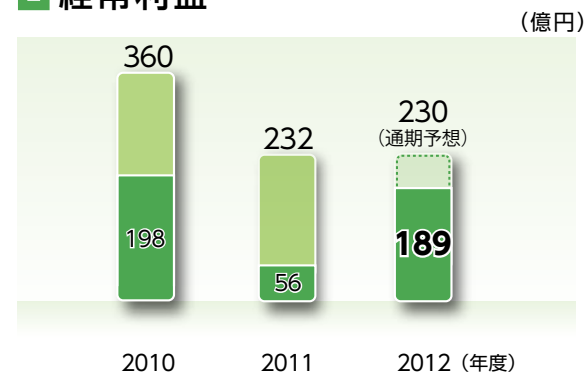


売上高



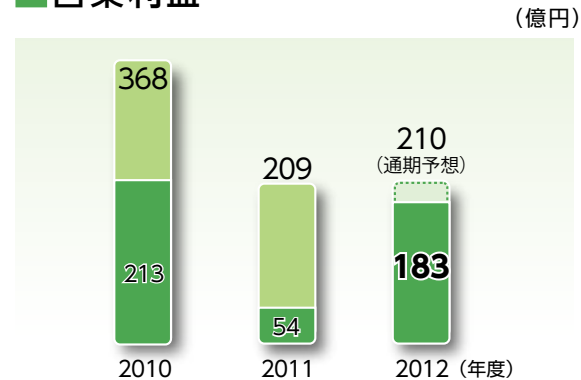
各地域での販売台数の増加などにより、増収となりました。

経常利益



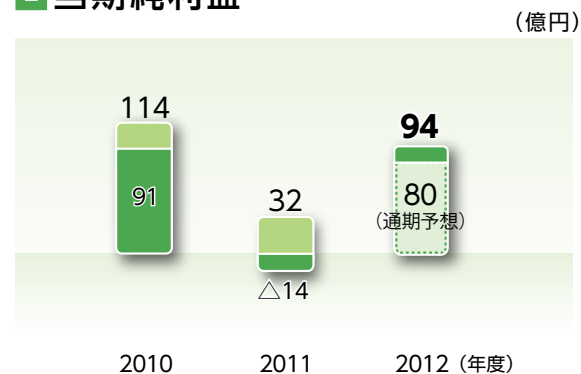
営業利益と同様に、増産増収の影響などにより、増益となりました。

営業利益



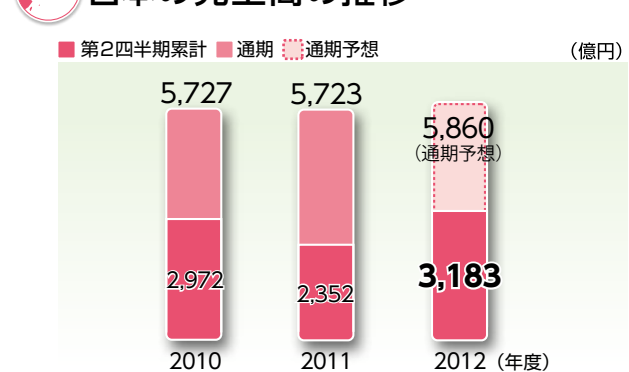
製品価格変動の影響などの減益要因はありましたが、増産増収の影響、合理化などにより、増益となりました。

当期純利益



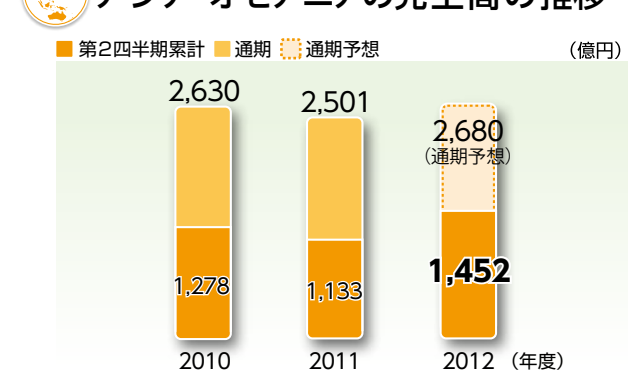
経常利益の増加に加え、特別損失の減少などにより、増益となり、黒字化となりました。

日本の売上高の推移



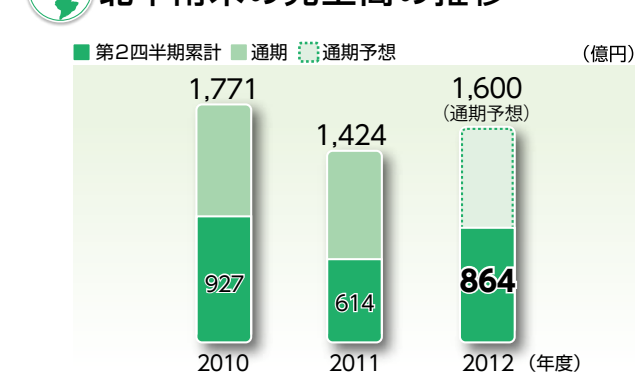
エコカー購入支援政策およびトヨタ アクア、プリウスαの増産効果などにより、前第2四半期累計に比べ、831億円(35.4%)増加の3,183億円となりました。

アジア・オセアニアの売上高の推移



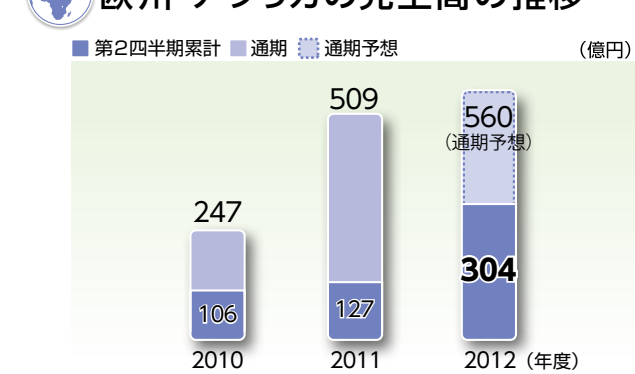
トヨタ IMVの増産効果などにより、前第2四半期累計に比べ、318億円(28.1%)増加の1,452億円となりました。

北中南米の売上高の推移



トヨタ カローラ、RAV4の増産効果などにより、前第2四半期累計に比べ、249億円(40.6%)増加の864億円となりました。

欧州・アフリカの売上高の推移



フランスのトヨタ ヤリスの増産効果や、紡織オートモーティブヨーロッパの事業開始などにより、前第2四半期累計に比べ、177億円(139.6%)増加の304億円となりました。

# お客様に最高のモビリティライフを

## 01 トピックス 技術開発 「TBスポーツシート」が市販車に初搭載

スポーツ走行を楽しむための乗り心地を追求した「TBスポーツシート」を開発し、9月にトヨタ自動車(株)から発売されたスポーツコンバージョン車※1 iQ「GRMN※2 Supercharger」に採用されました。このシートは、座圧を最適に分散させることで、フィット感やホールド性を向上させ、コーナリング時に激しい重力がかかる肩、腰、膝をバランスよく支え、運転姿勢を保持します。ステアリングやマニュアルシフト操作時にひじの動きを妨げないようシート形状を工夫することで、運転操作性も確保しました。

トヨタ紡織は2008年よりスポーツシートの開発に着手。ドイツで開催された2011年ニュルブルクリンク24時間耐久レースにGAZOO Racingから参戦したレクサスLFAのレース専用シートを皮切りに、2012年4月に発売したトヨタ86などの小型FRスポーツカー向けシートを製品化するなど、クルマと一体となった走りを体感できる独自の乗り心地理論を追求してきました。今後もスポーツシートを通じたトヨタ紡織の挑戦にご期待ください。

※1 外装や内装、走行性などを特別仕様とし、少量生産方法で生産したクルマ持ち込み登録が必要な改造自動車扱い  
※2 GRMN: GAZOO Racing tuned by MN



iQ「GRMN Supercharger」に搭載されたTBスポーツシート



iQ「GRMN Supercharger」

## 02 トピックス 技術開発 コンパクトカー用の送風シートを開発 トヨタ新型カローラに初搭載

送風機能を装備した「運転席ベンチレーション&ヒーター付ファブリックシート」をトヨタ自動車(株)および(株)デンソーと共同で開発し、5月にトヨタ自動車(株)が発売した新型カローラに採用されました。コンパクトカーに送風シートが搭載されるのは初めてです。通気性に優れたファブリックを表皮に採用し、乗員が快適と感じる場所に送風口を配置することにより、快適性を高めています。



新型カローラアクシオに搭載された運転席ベンチレーション&ヒーター付ファブリックシート

## 03 トピックス 技術開発 北京国際モーターショーに初出展

4月に中国で開催された「第12回北京国際モーターショー」に初めて出展しました。エキサイティングなドライブを楽しめる移動空間「T-Brain」や、小型FRスポーツカーに搭載されたスポーツシート、軽量化と乗り心地を両立した新世代シート骨格TB-NF110シリーズなどを展示。中国市場での事業拡大を目指し、トヨタ紡織グループの高い技術力を積極的にアピールしました。



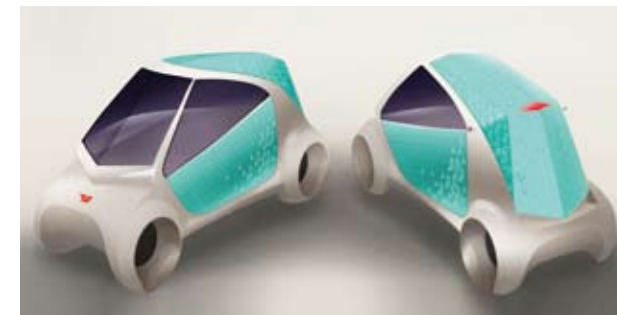
北京国際モーターショー当社ブース

## 05 トピックス 技術開発 多治見市でテストコースの建設に着手

4月に岐阜県多治見市でテストコースを備えた「多治見技術センター」の建設を開始しました。このテストコース新設により、技術部門だけでなく、企画・営業部門などプロジェクトに関わるすべての関係者による現地現物を通じた総合分析が可能となります。お客様に心から魅力的だと感じていただける製品開発を進めていきます。

## 04 トピックス 技術開発 イタリアのミラノサローネに初出展

イタリア・ミラノ市で4月に開催された第51回国際家具見本市「ミラノサローネ」に初出展しました。当社の源流事業であるファブリックの可能性を追求し、軽量、フレキシブル、スマートなどをコンセプトにした将来の移動空間の提案や、住宅用ファブリックウォールなどを出展。トヨタ紡織グループのデザインを世界に向けてアピールしました。



移動空間コンセプト「Wear Me」  
柔軟性のある防水性ファブリックをクルマの外装に使用し、ドライブ先でレインジャケットとしても着用できる、衣服をまとうクルマ提案



「多治見技術センター」完成予想図(2014年3月竣工予定)

# すべてのステークホルダーから信頼され、共に成長する企業を目指して

## 06 トピックス 事業展開 オートニウム、日本特殊塗料(株)との3社による内装システム開発の検討開始を発表

トヨタ紡織と、オートニウム(スイス)、日本特殊塗料(株)の3社は、8月に自動車内装事業における中長期的な協力関係の構築に向けた覚書に調印しました。エンジンルームや車室フロアなどの防音部品分野で世界有数の音響、防音技術を誇るオートニウムおよび日本特殊塗料と、自動車内装をトータルに開発するトヨタ紡織が協力し、次世代自動車向けの高品質かつ高いNV(\*)性能を有するパッケージの提案などの協業テーマについて検討を進めていきます。

(\*) Noise (騒音)、Vibration (振動)の略で、自動車の快適性を測る基準のひとつ



左からオートニウム ヒルツェル CEO、トヨタ紡織 豊田社長、日本特殊塗料 野島社長

## 07 トピックス 事業展開 東海ゴムグループと連携強化

トヨタ紡織は8月に自動車内装部品の開発における協業関係を強化するため、東海ゴム工業(株)の100%子会社である東海化成工業(株)が第三社割当増資のために新たに発行した15万株を取得し資本参加しました。内装システムサプライヤーとして移動空間をトータルに開発するトヨタ紡織、優れた制振技術を誇る東海ゴム工業、高いウレタン発泡成形技術を有する東海化成工業が独自技術を融合させ、内装製品や新製品の開発強化に加え、相互の生産拠点を活用し、グローバル競争力を高めていきます。



左から東海化成工業 中島社長、トヨタ紡織 豊田社長、東海ゴム工業 西村社長


## 08 トピックス 事業展開 タイの生産会社が2012年度 GOOD FACTORY賞を受賞

トヨタ紡織ゲートウェイ(タイランド)が7月、一般社団法人日本能率協会が主催する GOOD FACTORY賞「ものづくりプロセス革新賞」を受賞しました。この賞は、日本や中国などアジア地域の日系企業を対象に品質向上など4部門において成果を上げた工場を顕彰しています。



トヨタ紡織ゲートウェイの社員

## ■設立、生産開始、合併

設立	5月 6月	紡織オートモーティブチェコ TBソーテックトルコ	
生産開始	5月 8月	長春富維豊田紡織(シート、ドアトリムなど) トヨタ紡織ブラジル(シート、ドアトリム、エアクリナーなど)	
合併・社名変更	4月	TBユニファッション ([トヨタ紡織ユニフォーム]と[豊通ユニファッション]が合併)	

## 09 トピックス 地域社会とともに グローバル企業として社会貢献活動を展開

トヨタ紡織グループは、グローバルに事業を展開するうえで、よき企業市民として、それぞれの地域社会のみならず、地域に根ざした社会貢献活動に取り組んでいます。

### ■友とともに企画

障がいを持つ方が新しい体験をする企画を実施。11年目を迎える。参加者は延べ180名以上となりました。



車いすシェフをお招きしイタリア料理に挑戦

### ■ダウン症児との交流プログラム

ダウン症児を招き、三河湾クルージングなどを体験。12年目を迎え、参加者は延べ560名となりました。



三河湾クルージング体験を楽しんだ参加者たち

### ■グローバル環境クリーン活動

世界各地域で、定期的に工場周辺の環境美化活動に取り組んでいます。

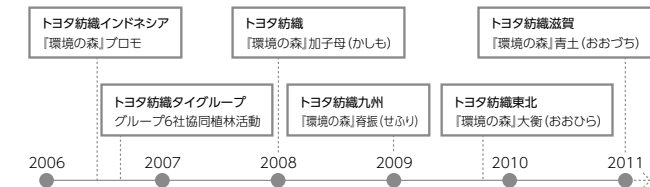


グローバル環境クリーン活動(中国佛山豊田紡織)

## 10 トピックス 地域社会とともに グローバルな森づくり活動

トヨタ紡織グループでは、2006年からグローバルな地球環境保護に貢献するため、インドネシアやタイ、日本を中心に森づくり活動(植栽、森林整備、地域交流)を行っています。

### ■トヨタ紡織グループ森づくり活動の変遷(2006年~)



## 企業スポーツ活動

トヨタ紡織グループの4つの強化クラブは、日本や世界での活躍を目指すほか、社会貢献活動にも力を入れています。

### ■ボート部

目標：全日本選手権大会優勝  
愛知県内の練習場周辺でクリーン活動を実施し、環境整備に貢献。



### ■陸上部

目標：元旦のニューイヤークリニック  
愛知県内の小学生と陸上クラブが交流する「陸上クリニック(講習会)」に参加。



### ■女子バスケットボール部

目標：Wリーグ上位入賞  
岐阜県内の中学生を対象に「バスケットボールクリニック(講習会)」を開催。



### ■ハンドボール部(トヨタ紡織九州)

目標：日本ハンドボールリーグ優勝  
トヨタグループ4チームと協同で、宮城県内の中学生を対象に指導会を実施。



## 株式事務のお取扱いについて

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
配当金支払株主確定日	3月31日 なお、中間配当を実施するときは9月30日
株主名簿管理人 および特別口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号

### ご注意

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に口座をお持ちの株主様の各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

## 株式に関するお手続きについて

### ■ 特別口座に記録された株式

お手続き、 ご照会等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 特別口座から一般口座への振替請求</li> <li>● 単元未満株式の買取（買増）請求</li> <li>● 住所・氏名等のご変更</li> <li>● 特別口座の残高照会</li> <li>● 配当金の受領方法の指定※</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 郵送物等の発送と返戻に関するご照会</li> <li>● 支払期限経過後の配当金に関するご照会</li> <li>● 株式事務に関する一般的なお問合せ</li> </ul>
お問合せ先	特別口座管理機関	株主名簿管理人
	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 <b>[手続き書類のご請求方法]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 音声自動応答電話によるご請求 <b>0120-244-479</b>（通話料無料）</li> <li>● インターネットによるダウンロード <a href="http://www.tr.mufg.jp/daikou/">http://www.tr.mufg.jp/daikou/</a></li> </ul>	

※特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

### ■ 証券会社等の口座に記録された株式

お手続き、 ご照会等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 郵送物等の発送と返戻に関するご照会</li> <li>● 支払期間経過後の配当金に関するご照会</li> <li>● 株式事務に関する一般的なお問合せ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 左記以外のお手続き、ご照会等</li> </ul>
お問合せ先	株主名簿管理人	口座を開設されている 証券会社等にお問合せください
	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部	

お問合せ先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
TEL 0120-232-711（通話料無料）

# 決算概要

## 連結貸借対照表の要旨

(単位：百万円)

科目	当第2四半期末 (2012年9月30日)	前期末 (2012年3月31日)
<b>●資産の部</b>		
流動資産	350,071	372,052
固定資産	220,706	225,602
有形固定資産	184,982	189,832
無形固定資産	3,621	4,426
投資その他の資産	32,102	31,342
<b>資産合計</b>	<b>570,777</b>	<b>597,654</b>

## 連結損益計算書の要旨

(単位：百万円)

科目	当第2四半期累計期間 (2012年4月1日～ 2012年9月30日)	前第2四半期累計期間 (2011年4月1日～ 2011年9月30日)
<b>売上高</b>	<b>551,335</b>	<b>400,825</b>
売上総利益	50,870	30,569
販売費及び一般管理費	32,534	25,090
<b>営業利益</b>	<b>18,335</b>	<b>5,478</b>
営業外収益	4,379	4,478
営業外費用	3,789	4,268
<b>経常利益</b>	<b>18,925</b>	<b>5,688</b>
特別損失	-	3,288
税金等調整前四半期純利益	18,925	2,400
法人税等合計	6,207	1,738
少数株主利益	3,246	2,098
<b>四半期純利益又は四半期純損失(△)</b>	<b>9,470</b>	<b>△ 1,436</b>

(単位：百万円)

科目	当第2四半期末 (2012年9月30日)	前期末 (2012年3月31日)
<b>●負債の部</b>		
流動負債	243,370	272,204
固定負債	133,851	135,101
<b>負債合計</b>	<b>377,221</b>	<b>407,306</b>
<b>●純資産の部</b>		
株主資本	197,257	189,454
その他の包括利益累計額	△ 31,891	△ 28,439
新株予約権	973	972
少数株主持分	27,216	28,360
<b>純資産合計</b>	<b>193,555</b>	<b>190,347</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>570,777</b>	<b>597,654</b>

### 第2四半期配当金について

2012年9月30日の最終の株主名簿(実質株主名簿を含む)に記載、もしくは記録された株主または登録株式質権者に対し、次のとおり第2四半期配当金をお支払いします。

1. 第2四半期配当金：1株につき8円
2. 効力発生日ならびに支払い開始日：2012年11月26日

### 当社のIR活動

個人投資家向けセミナーを積極的に開催し、投資家のみなさまとのコミュニケーションを図っています。また、個人株主のみなさまに、生産ライン見学を通じてトヨタ紡織グループへの理解を深めていただくため、定期的に工場見学会を開催しています。

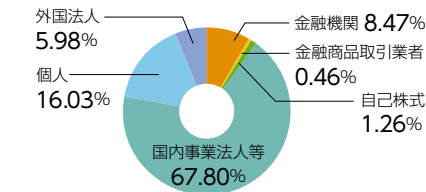
# 会社の概況 (2012年9月30日現在)

## 株式の総数

発行可能株式総数 ..... 500,000,000株  
発行済株式の総数 ..... 187,665,738株

## 株主数 (21,575名)

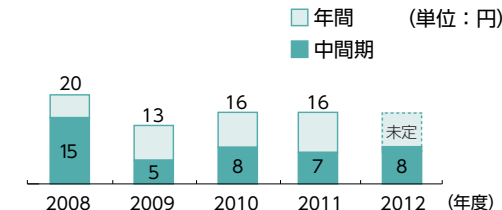
### ●所有者別株式分布状況



## 大株主 (上位10社)

株主名	持株数(株)
トヨタ自動車株式会社	73,653,995
東和不動産株式会社	18,346,209
株式会社デンソー	10,192,100
株式会社豊田自動織機	7,756,062
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	7,523,400
日本発条株式会社	7,220,500
豊田通商株式会社	4,367,100
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	3,618,100
トヨタ紡織従業員持株会	2,481,419
資産管理サービス信託銀行株式会社	1,914,100

## ●配当金の推移



当社は、安定的な配当の継続を基本に、連結業績および配当性向などを総合的に勘案し、株主のみなさまのご期待にお応えしていくことを配当の基本方針としています。

## 会社データ

設立 ..... 1950年5月  
資本金 ..... 8,400百万円  
従業員数 ..... 単独 8,291名 連結 32,023名  
本社 ..... 愛知県刈谷市豊田町1丁目1番地

## 役員 [取締役および監査役]

取締役社長	豊田 周平	取締役	堀 弘平
取締役副社長	飯田 耕次	取締役	内山田竹志
取締役副社長	寺坂 幸一	取締役	宮木 正彦
取締役副社長	宮寺 和彦	常勤監査役	桂木 正樹
取締役	上田 広司	常勤監査役	伊藤 嘉徳
取締役	野田 憲一	監査役	豊田 章男
取締役	伊藤 文隆	監査役	吉田 均
取締役	滝 隆道	監査役	加藤 宣明

## 主な製品



### ●内装品

シート、ドアトリム、天井、カーペットなどから構成される移動空間を統合的・効率的にコーディネートされたシステムとして捉え、総合的な美しさや快適性・安全性を追求しています。



### ●フィルター・パワートレイン機器部品

世界をリードするフィルトレーション技術を駆使し、吸気システム製品や、エレメント交換型オイルフィルターなどのエンジン潤滑系製品、車室内空調系フィルター製品などの開発・生産を行っています。



### ●繊維・外装品他

繊維事業ではエアバッグ用布製品、天井表皮材などの開発・生産を行っています。また、外装品事業では補給用バンパー、フェンダーライナーやエンジンアンダーカバーの生産を行っています。